

2021. 1. 1

埼玉県商工会議所連合会会長
さいたま商工会議所会頭
池田 一義

年頭のご挨拶

皆様 明けましておめでとうございます。旧年中は商工会議所の活動にご理解ご協力を賜り、誠にありがとうございました。本年も引き続きよろしくお願い申し上げます。

昨年は、コロナの出現という未曾有の社会経済情勢となりました。第一波、第二波と終息の兆しの見えないまま、経済活動と感染予防を両立させる大変難しい対応が続きました。2020年の経済成長は4～6月には年率28.1%減と戦後最大の落ち込みを記録しました。戦後2番目の景気拡大期は18年10月に終わって（景気の山）いましたが、コロナが景気の谷を決定づけた形となりました。政府の総事業費200兆円を超える経済対策もあり20年5月に景気の大底を打ったという感がいたします。20年度は大方の予想では6%超のマイナスに落ち込んだのち、21年度は3.5%程度のプラスを見込んでいます。

しかし、年末にかけて感染拡大に歯止めがかからず、第三波の山は大きく一都三県の知事による政府への緊急事態宣言の要請となりました。様々な経済対策の上乗せなどによる影響を最小限にしつつも、更なる成長への出鼻がくじかれることとなりそうです。埼玉県経済も厳しいながらも、一部に持ち直しの動きが出ている状況下、更なる対策も求められることとなります。依然コロナは終息の兆しを見せていませんが、欧米をはじめワクチンの接種も始まっており、日本においても早く安全なる接種が実施されることを期待したいと思います。

このコロナ禍にあっても、世界の経済や政治情勢は構造的に変化しています。米中関係をはじめ政治や安全保障関係がグローバルに変化し、中国の世界経済全体に占める存在感は高まっています。これらは日本に大きな影響を及ぼすことは間違いのないことです。冷戦時代は資本主義対社会主義の対立であったものが、それぞれの国の異なる事情のなかで格差や自国主義、宗教対立など分断の要素が数多く存在します。国際協調や安全保障の問題なども経済に影響を大きく与える時代となりました。

このような混迷（VUCA）の時代において、私たち商工会議所は、会員が相互に有益な情報を得られ事業の継続と成長に資するお手伝いをしてまいります。皆さんの声を集約し政府や県、市への要望に反映し、会員企業のサポートとなる支援を行いたいと思いま

す。お蔭様で、昨年から政府が打ち出した大企業による中小企業へ不合理な取引を防ぐ「パートナーシップ構築宣言」は皆さんの意識の高まりでさいたま市を中心に埼玉県で全国2位の100社を超える企業が賛同していただきました。このような取り組みも積極的に推進してまいります。また、このような時こそ従前にも増して、経営指導員による伴走型の支援も充実させてまいります。これらの中には、事業承継や事業転換、新たなビジネスへのチャレンジなども行ってまいりたいと思います。

さて、現在のグローバルな潮流や政府の施策を見れば、今後の成長のキードライバーは、明らかとなっています。

一つ目にはカーボンゼロへの対応です。脱炭素への道のりは厳しいながら、欧州をはじめ世界はすでに動き出しており、これらに関連するビジネスは多岐にわたり大きなチャンスであります。また、SDG'sに関連するビジネスの展開も同様なドライバーと成り得ます。

二つ目は、デジタル化です。日本のデジタル化の遅れはコロナで露見しましたが大きく周回遅れとなっています。政府も地方公共団体もデジタル化に大きく舵をきっていくものと思います。私たち企業も規模の大小にかかわらず様々なツールを利用することでより生産性を高めることができると思います。

日本の生産性は先進諸国と比較して低いと言われています。このコロナ禍の未曾有の危機が大きな転換点となり、より生産性の高い国への変化が可能です。私たちの自社の経営資源とビジネスを今一度見つめ直し、「変えるべきもの」と「残すべきもの」をしっかりと見極める。これはまさに最近のビジネスモデルの潮流である「両利きの経営」を行い、既存事業を「深化」させると同時に、既存事業を活かした新たな領域での成長機会を「探索」し、収益力・競争力をより強固にしていくことが求められていると思います。

当会議所は本年4月から3ヶ年の「第5次中期ビジョン」がスタートします。会員の皆様の変革のサポートを全力で取り組むとともに、会員で良かったと実感できる商工会議所を目指して参ります。

結びに、皆様のご事業のご発展と皆様のご健康ご多幸をお祈り申し上げ、年頭の挨拶とさせていただきます。